

4. 重点的に取り組む目標

重点的に取り組む目標

今計画の10年間において、目指すまちの将来像の実現に向かって、7つの方向性に基づき、中長期的な視点で各分野のまちづくりに取り組んでいく一方で、厳しい行財政運営が見込まれるなかでは、限られた資源を有効に活用し効果を発揮するために、選択と集中の視点を持って、短期的に取り組む目標を設定し、予算や人的資源を優先して投資することが重要です。

位置付けの考え方

室蘭市において重要かつ喫緊の課題は人口減少対策です。人口減少は現在室蘭市で起きている様々な事象に影響を及ぼしています。

人口減少社会にしっかりと向き合い、10年後、またその先の将来にわたって住み続けられるまちをつくっていくために、当面5年間のなかで力を入れる取り組みについて、少しでも人口減少を抑え、まちに新たな人を呼び込むこと、人口減少が一定程度進む中でも暮らしやすい持続可能なまちをつくることに力点をおき、アンケート結果など市民ニーズも踏まえながら、以下の項目を重点的に取り組む目標として位置付けます。

重点目標 1 まちに住み続けてもらい、新たな人を増やす

人口減少対策の基本として、本市に住み続けてもらうこと、また、新たな市民を増やすことが必要です。働くまちとして選ばれ、そして、子育て世代が希望を持って住み続けられる環境を整えることが重要であることから、『総合戦略』に基づく「雇用」・「子育て」の取り組みを推進していきます。

重点目標 2 魅力を高め交流人口を拡大する

定住対策に取り組む一方で、資源を磨き魅力を高め、市外から人を呼び込み、交流人口の拡大に取り組むことが、今後重要になってきます。

まちなぎわいや活気を生み出すため、市民からのニーズも高い「交流・観光」について、『観光振興計画』を軸に、様々な視点から交流人口拡大に向けた取り組みを進めます。

重点目標 3 人口規模にあったまちに整える

人口減少が一定程度進む中でも、まちのコンパクト化や公共インフラの維持管理を行い、安心して暮らせるまちをつくり、次の世代へ引き継ぐ持続可能なまちづくりを進めることが重要です。

『立地適正化計画（都市計画マスタープラン）』に基づく取り組みを推進し、「持続可能なまちづくり」を目指します。

重点目標 4 まちづくりを持続させる確かな基盤をつくる

限られた資源の中で、安定した行政サービスを維持し、戦略的なまちづくりを進めるには、確固たる行財政基盤の確立が重要となってきます。

『行政改革プラン』に基づく「行財政改革」の取り組みを推進し、まちづくりを持続させる確かな基盤をつくれます。

これらを重点的に取り組むなかで、中間である5年を目途に効果を検証し、また社会情勢の変化や市民ニーズなども踏まえながら、その位置付けを点検します。

重点的に取り組む目標

今後5年間、重点的に取り組む目標を次のとおり設定します。

重点目標 1	まちに住み続けてもらい、新たな人を増やす
推進する個別計画	総合戦略
ねらい	<input type="checkbox"/> まちの特性を生かし、産業振興と魅力ある雇用の場を創出する <input type="checkbox"/> 子育て世代が希望を持って住み続けられるまちをつくる <input type="checkbox"/> まちの資源を生かし、新たな「ひと」の流れをつくる

	指標名	現況	目標値
指標と 目標値	市の施策により創出する 新規雇用者数 など	約 300 人 (H27～30 年度)	約 750 名 (R2～6 年度)
	子育て支援の取り組みに満足して いる 20～30 代の市民の割合	30.2% (H30 年度)	35.0% (R6 年度)

関連する分野別目標

- 目標① 企業・大学等と連携し、成長・挑戦を続けるものづくりのまち
- 目標② 安定的・魅力的な雇用の場を生み出し、働く人が集まるまち
- 目標③ 多様な働き方により働きがいのあるまち
- 目標④ 仕事と子育てが両立できる保育環境や所得に関係なく安心して子育てできるまち
- 目標⑤ 団体・企業と連携し、みんなで若者・子育てを応援するまち
- 目標⑥ 子どもが健やかに成長し、ふるさと「室蘭」への愛着が育つ教育環境
- 目標⑩ 自然や食、歴史文化など地域資源を磨き上げ発信し、国内・海外から訪れたいまち

重点目標 2	魅力を高め交流人口を拡大する
推進する個別計画	観光振興計画
ねらい	<input type="checkbox"/> 観光客の滞在・消費を促し、地域経済に循環させる 取り組み「稼ぐ観光」によって地域経済の活性化を目指す <input type="checkbox"/> 独自の資源を磨き上げ、他の地域との差別化を図る <input type="checkbox"/> 強みのある観光コンテンツを維持していく取り組みを進める

	指標名	現況	目標値
指標と 目標値	観光消費単価	日帰り客 3,720 円	現状より
		宿泊客 16,782 円 (H29 年度)	1,000 円増加 (R11 年度)
	観光入込客数	1,242 千人 (H30 年度)	1,500 千人以上 (R11 年度)

関連する分野別目標

目標⑩ 自然や食、歴史文化など地域資源を磨き上げ発信し、国内・海外から訪れたいまち

目標⑪ 物流や交流の拠点としてにぎわいのある港

重点目標 3	人口規模にあったまちに整える
推進する個別計画	立地適正化計画（都市計画マスタープラン）
ねらい	<input type="checkbox"/> 公共施設の拠点集約と再編により市民サービスを充実させる <input type="checkbox"/> 既存ストック活用等による移住・定住対策を推進する <input type="checkbox"/> 広域中心拠点にふさわしいまちの顔をつくる <input type="checkbox"/> 生活を豊かにする利便性の高い公共交通網を実現する

	指標名	現況	目標値
指標と 目標値	居住誘導区域内の人口密度	46 人/ha (H27 年度)	35 人/ha (R22 年度)
	路線バス利用の満足度	36% (H30 年度)	50%以上 (R10 年度)

関連する分野別目標

目標⑫ 都市機能が集まりにぎわいのあるまちなかや快適な居住環境の創出により
住み続けたいまち

目標⑬ 利便性が高く持続可能な公共交通網の形成により誰もが移動しやすいまち

重点目標 4	まちづくりを持続させる確かな基盤をつくる
推進する個別計画	行政改革プラン
ねらい	<input type="checkbox"/> 事業の検証や見直しを継続的に実施し、行財政基盤の強化を図る <input type="checkbox"/> 公共施設の保有総量の適正化や適切な管理を推進し、市有財産のスリム化を図る <input type="checkbox"/> 民間ノウハウなどの活用を図りながら、行政サービスの利便性向上を図る

	指標名	現況	目標値
指標と 目標値	累積収支不足額の解消	効果額 1,166 百万円 (H28～H30 年度までの総額)	1,834 百万円を解消 (R3 年度)
		※R4 からの次期行政改革プランにあわせ指標の見直しを検討	
	公共建築物の保有総量	4.0% 縮減 (H30 年度)	15% 縮減 (R7 年度まで)

関連する分野別目標

目標⑯ 将来にわたり持続可能な行財政運営

目標⑰ 将来を見据えた公共施設の再編など適切な維持管理

